

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。仏教伝来がテーマの今年のかわら版。先月から中国に伝わった仏教の話です。今月は**訳経僧**についてです。

★ 訳経僧 (やっきょうそう)

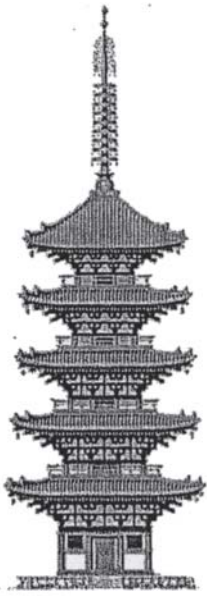
中国に仏教が伝わったのは**一世紀頃の後漢**の時代。日本に仏教が伝来する五百年前です。

しかし、**サンスクリット語**や**パーリ語**で書かれた経典を中国の人は読めません。

そこで活躍したのが、中国とインドの中継地点である**西域**や**中継路**である**シルクロード**の僧たち。

彼らはインドの言葉と中国語に精通し、多くの経典を翻訳したことから**訳経僧**と呼ばれています。

初めてまとまった経典を翻訳したのは**二世紀半ばの安世高(あんせいこう)**。もともとは西域の安息国(あんそくこく)の王子でしたが、王位を弟に譲って出家。安



世高は**三十四経典**を訳したそうです。

やはり西域の**月氏国**出身の**支婁迦讖(しるかせん)**。道行般若経(どうぎょうはんになきゃきょう)を訳した。

道行般若経の「**空**」という概念が、中国古来の「**無**」という考え方と結びつき、その後の中国の思想に大きな影響を与えました。



サンスクリット語の碑文★
パーリ語の碑文★

★ 戒律と伝記

二世紀後半になると**安玄(あんげん)**という訳経僧が渡来。やはり安息国の出身です。

安玄は僧が**戒律**を守るための大切さを広めるために、戒律に関する経典を翻訳しました。

安玄と一緒に翻訳に当たった**嚴仏調(ごんぶつちよう)**は、中国人で初めて正式に出家僧となった人物です。

三世紀になると、**康居(こうきよ)**という国から**康孟詳(こうもうしょう)**が渡来。康居は月氏国と安息国の北に位置する国です。

康孟詳はお釈迦様の**伝記的経典**を翻訳。これによってお釈迦様の素顔や人生が伝わり、中国に仏教が広がる契機となりました。

★ 三国時代の訳経僧

後漢は**西暦二一〇年**に滅亡し、**三国志**で知られる**魏・呉・蜀**による**三国時代**が到来。

魏には**曇柯迦羅(どんかから)**、**康僧鎧(こうそうがい)**、**曇帝(どんてい)**といった訳経僧が渡来。戒律関係の経典を精力的に翻訳しました。

中国から西域に渡ったのは**朱子行(しゅしこう)**。放光般若経(ほうこうはんになきゃきょう)を入手して弟子の**不如檀(ふにょだん)**に持ち帰らせて翻訳。朱子行

は西域で命を落としましたが、朱子行のおかげで「**空**」の概念が中国で一段と広がりました。

呉で活躍した訳経僧は**支謙(しけん)**。前述の支婁迦讖の孫弟子ですが、**六力国語**に精通し、般若経を中心に**四十九経典**を訳しました。

支謙は仏教音楽の**梵唄(ぼんぱい)**の教科書も執筆。

「梵」はサンスクリット語のことです。梵唄はサンスクリット語の賛歌という意味。日本では**声明(しょうみょう)**と言います。

三国時代の訳経僧の代表は**竺法護(じくほうご)**。支謙を上回る**三十六力国語**に精通し、**百四十九経典**を翻訳。大半が大乗経典でした。

竺法護の晩年には、中国が三国時代から晋の時代に入ります。

★ 竹林の七賢

来月は晋の仏教をお伝えします。晋は**西暦二六五年**から**四二〇年**の国。儒教、道教、仏教に基づく中国思想が確立していった時代です。この三教は後に日本で**弘法大師**が著す**三教指帰(さんこうしき)**の三教のこと。**竹林(ちくりん)の七賢(しちけん)**と言われる賢人をはじめ、多くの思想家や僧が活躍しました。乞うご期待。

